

平成24年度国立天文台研究集会開催報告書

平成25年3月25日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) あいかわ ゆり
		相川祐理
	所属・職	神戸大学理学部・准教授
研究集会名	Workshop on Interstellar Matter 2012	
開催期間	平成24年 10 月 17 日 ～ 平成24 年 10 月 19 日	
開催場所	北海道大学低温科学研究所	
参加人数	48名	
研究集会の概要	海外からの8名を含む48名が参加した。講演はすべて英語で行われた。詳しいプログラムは http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/astro/ISM2012/program.html に掲載されているので、ここでは概要を報告する。分光学、天文学、室内実験などの研究者が集まる学際的な研究会なので、招待講演（9件）は45分、一般講演は30分と講演時間を長めに取った。 17日午前 講演者：Adwin Boogert (CalTech), 下西隆 (神戸大学) ほか計5名 主な講演テーマ：星間ダスト、星間水の観測 17日午後 講演者：Patrice Theulé (Aix-Marseille University) ほか計3名 主な講演テーマ：物質進化素過程の室内実験 ポスター発表の内容紹介のためのshort presentation 18日午前 講演者：Eric Herbst (U. Virginia), Nathan Crockett (U. Michigan) ほか計4名 主な講演テーマ：分子雲、惑星系形成領域などにおける有機物の形成進化 18日午後 講演者：Vianney Taquet (U. Grenoble), 岡田邦宏 (上智大) ほか計5名 主な講演テーマ：星間氷表面反応モデル、気相反応実験、分子雲観測 ポスターセッション 19日午前 Holger Müller (Universität zu Köln, Germany) ほか計4名 主な講演テーマ：分光実験、分光データベース 19日午後 低温研実験室見学 ポスター発表は19件あり、上記のとおり、初日に口頭でのshort presentationを行い、昼休みや夕方のポスターセッションで活発な議論が行われた。	

研究集会の成果	本研究会の目標の一つは、星間物質に関連したさまざまな分野間で、互いの研究の最先端の状況を把握することであった。招待講演としては、Eric Herbst氏、Holger Müller氏ら世界的に著名な第一人者や、Vianney Taquet氏、下西隆氏ら勢いのある若手研究者にレビュー的な要素を含めた講演をお願いした。また、一般講演者にも、本研究会の趣旨に基づき、他分野研究者へもアピールする話し方をお願いした。その結果、質疑応答の時間、休み時間、ポスターセッションにおいて、分野の異なる研究者同士の議論や質疑が活発に行われた。また特にポスターセッションでは、口頭講演では質問しにくい初歩的な内容も含めてじっくり質問する若手の姿も見られた。 本研究会のもうひとつの目標は、通常の研究会と同じく、それぞれの（同じ分野に属する）研究者同士の議論である。これも活発に行われた。具体的な参加者の名前を挙げることは避けるが、例えば、招待講演者と同じ分野の若手研究者が、休み時間に自分の研究結果を紹介したり、研究手法について詳細な議論を行ったりする姿が見られた。また室内実験の研究者と理論モデルの研究者の間で、実験から得られたデータの理論モデルへの適用など、共同研究のはじまりも見受けられた。 また、国内で行われる国際会議ということで、何人かの大学院生には初めての英語での発表、という教育的な効果もあった。
その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)	